

ライト・エンジニアリング -- 機械産業の曙光 (特集 気がつけばバングラデシュ -- 芽吹く新産業)

著者	山形 辰史
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	231
ページ	17-18
発行年	2014-12
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00003323

【第2部 後発性利益の享受】

ライト・エンジニアリング
—機械産業の曙光—

山形 辰史

エンジニアリング産業とは、機械産業と金属加工業のことである。バングラデシュで生産される機械や金属加工品が、主として軽工業的な機械部品や小型機械であったため、「ライト・エンジニアリング」という呼称が定着している。

ライト・エンジニアリング産業は、バングラデシュ製造業におい

て、その存在感はまだ小さく、金属加工と一般機械、電気機器、輸送機械の四業種の、製造業全体の付加価値に占めるシェアはたかだか二%である。輸出のシェアも小さいが、機械輸出には、注目すべき特徴がある。二〇〇九/一〇年度において、機械輸出の五七%が「鉄道車両以外の車両」であり、その過半を占めているのが自転車であった(三八・〇%)。

●貿易摩擦の間隙を縫う—自転車—

バングラデシュの自転車産業は、他国の貿易摩擦の間隙を縫って発展した。世界の主要自転車輸出国のひとつである中国からEUへの自転車輸出に対し、一九九三年からダンピング相殺関税が課された。相殺関税率とその他諸々の加算税を合計すると六〇%以上の高率と

なる。この相殺関税は現在も課されているので、二〇一二年の、EUの自転車輸入に占める中国製自転車の割合は二%未満に過ぎない。相殺関税が課されていないアメリカにおいて、同年の自転車輸入の約三分の二が中国製であることから、EU市場における中国製自転車の少なさは、相殺関税の賦課に拠っているものと考えられる。

バングラデシュのEUへの自転車輸出は、中国製自転車に課せられた相殺関税を機に伸長した。一九九〇年代初めから増加が始まり、図1にみられるように、二〇〇〇年代には飛躍的に伸びている。

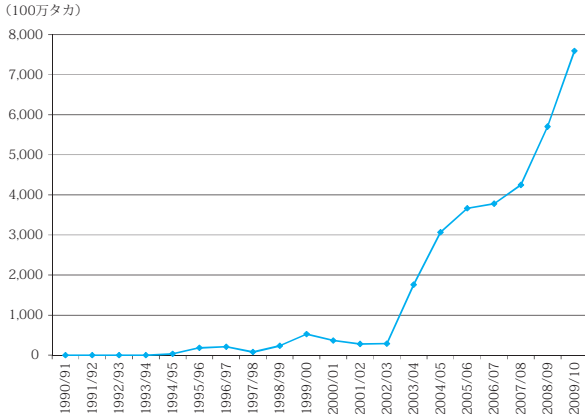
バングラデシュの主な自転車輸出企業は、メグナ (Meghna)、アリタ (Alita (BD) Limited)、ジャーマン・バングラ (GermanBangla Bicycles Ltd.) の三つである。メグナは現地資本であるが、アリタ

とジャーマン・バングラはそれぞれ台湾、ドイツ系である。メグナの創業者は、現会長兼社長ミザル・ラフマン・ブイヤンの父親のアブドゥル・カレク・ブイヤンである。アブドゥル氏は一九六〇年代終わりに自転車や自転車部品の輸入を始め、一九七〇年代初めには自転車のスポークの生産を始めた。一九八六年にアブドゥル氏が亡くなったのち、現会長兼社長が後を継いだ。

メグナは一九九九年頃に、イギリスの伝統的自転車ブランドであるラレー (Raleigh、一八八七年創業) の相手先商標製品製造 (OEM) の契約を得たことをきっかけに、ヨーロッパ市場進出を本格化した。その後、多くのイギリスやその他ヨーロッパの自転車ブランドのOEM契約を結んでいる。二〇一三年の輸出向け生産量は年間約五〇万台で、同社によれば、二〇一〇年にはEU市場において第五位の輸出企業であった。

このようにバングラデシュの自転車産業は、中国とEUの貿易摩擦の間隙を縫う形で成長している。この発展パターンは、縫製業が、欧米の貿易制限によって発展の契機を得たことと酷似している。

図1 バングラデシュの自転車輸出



(出所) Bangladesh Bureau of Statistics (BBS). Foreign Trade Statistics of Bangladesh, Dhaka: BBS, 各年版。

●生活の電化を担う―家電とIT機器―

Bangladesh は堅実な経済成長を続けており、それにもないかつては一般庶民の手が届かなかった、冷蔵庫や洗濯機、エアコンといった家電製品や、携帯電話やパソコンといったIT機器の需要が高まっている。このような需要増に対して、地場資本が即座に国内生産で応えることは通常無理なので、この需要増に輸入増で対応することとなる。 Bangladesh の場合には、Rangs Electronics、Electro Mart、Butterfly Marketing、Singer Bangladesh、MyOne Electronics Industries といった企業が電気機器の輸入販売を行っている。例えば Rangs はソニー、Electro Mart は中国ブランドの康佳や格力、Butterfly は韓国のLGの製品を販売している。



ウォルトンの冷蔵庫の出荷（2012年8月 筆者撮影）

しかし近年、 Bangladesh の家電やIT機器の輸入代替は、顕著に進んでいる。図2は、冷

蔵庫に関して、 Bangladesh シュ市場への主要輸出国である中国とタイの輸出額の推移を示している。両国とも二〇一〇年ごろから頭打ちとなり、その後、減少へと転じている。これは Bangladesh シュの冷蔵庫の国内生産が、輸入品を代替して生産を伸ばしていることの傍証である。

●家電産業の星―ウォルトン―

国内生産を増加させている企業の代表がウォルトン社（Walton Hi-Tech Industries Ltd.）であり、 Bangladesh シュ初の自国ブランドとしても注目されている。

ウォルトンの主力商品は、(1)冷蔵庫、エアコン、洗濯機、といった家電、(2)液晶テレビ、携帯電話（カラーディスプレイでアンドロイド搭載）といったIT機器、(3)オートバイである。なかでも市場占有率が高く、スラムの茶店・雑貨屋にさえ普及しているのが冷蔵庫である。二〇一三年八月三〇日付の『ファイナンシャル・エクスプレス』（ Bangladesh シュの英字経済新聞）によれば、 Bangladesh シュ冷蔵庫製造者協会は、ウォルトンの冷蔵庫の市場占有率が、二〇一二―一三年度に六四%であつ

たと報告している。残りはほとんどが輸入品である。

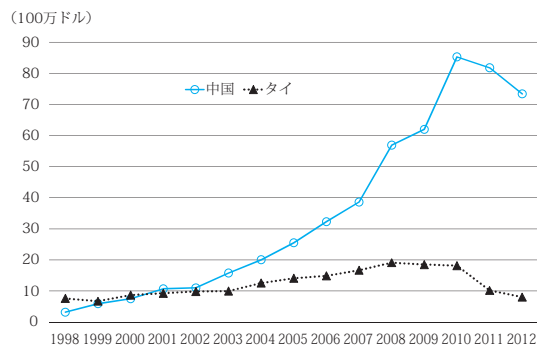
ウォルトンの販売戦略の特徴は、(1)全国にサービスマスター網を張ってアフターサービスを強化していること、(2)分割払いでの購入を受け容れていること、の二点である。同時に、首都ダッカのみならず、 Bangladesh シュ全土の幹線道路に広告を打ち出している。

今のところ、ウォルトンの製品の中核部品は輸入に依存している。参考文献①の同社でのインタビューに拠れば、冷蔵庫、エアコン、液晶テレビ、オートバイの中核部品は、日中韓の著名企業からの輸入に依存している。今後ウォルトンが輸出を拡大していくためには、中核部品の内製化を進めることが課題となる。二〇一四年五月六日付の『ファイナンシャル・タイムズ』に拠れば、ウォルトンは二〇一六年操業開始を目標に、年間二〇〇万個の冷蔵庫・エアコン用コンプレッサーを生産する工場を建設する計画である。

●おわりに

今のところ Bangladesh シュは、「縫製業モノカルチャー」の国と認識されている。しかし自転車や

図2 中国、タイの Bangladesh シュへの冷蔵庫輸出



(出所) 中国は China Customs データ、タイは Thai Customs Department データ。貿易システムの World Trade Atlas から抽出した。
(注) 冷蔵庫の HS コードは 8418 である。

電気機械を生産する企業が増えてくれば、「東アジア的工業発展が Bangladesh シュに波及した」と理解されることであろう。メグナやウォルトンがどれだけ成長するか、そしてそれに続く企業が現れるか、が今後の焦点となる。

(やまがた たつふみ/アジア経済研究所 国際交流研修室)

《参考文献》

- ①大木博巳・鈴木隆史・北見創「国内に製造業を根付かせたい―ウォルトン― Bangladesh シュ」『通商商報』二〇一一年一〇月一日号。